

平成27年8月 全員協議会

平成27年8月5日（水曜日）

古市 三久 議員（福島・みどりの風）



※ [8月5日の全員協議会について](#)

古市三久議員

福島・みどりの風の古市三久である。

ずっと聞いていた感想を若干述べるが、東京電力（株）の廣瀬社長は、できることは何でもやると述べたが、東京電力（株）の都合や優先順位によりやるとしか聞こえない。もっと県民の立場でしっかりやってもらいたい。

そこで質問であるが、収束作業に伴っていわき市から多くの作業員が通勤しており、いわき市民はいろいろと不便をこうむっていることは承知していると思う。原子力発電所の建設時は双葉郡にかなりの宿泊者がいて、そこから通って作業していた。震災から4年もたったのだから、原発事故収束作業員の宿舎を双葉郡に集約して、いわき市からの通勤者を飛躍的に減らしてもらいたい、その辺の考えはどうか。

東京電力（株）代表執行役社長

具体的にどのゼネコンがどこにとまでは把握していないが、次第に避難解除が北へ進み、働く場所は福島第一原発であるため通勤時間等を考えてもそうしたほうが合理的である。全部が全部、東京電力（株）が宿舎をつくるわけではないので、ゼネコンや重電メーカーの社宅も含め、近くに建設してもらおうよう私からも要請していきたい。

古市三久議員

この件については、速やかに計画を立ててやってもらいたい、どうか。

東京電力（株）代表執行役副社長

廃炉作業は、もちろん当社の社員もかかわっているが、関係会社や協力会社の社員もたくさんいる。一つ具体的には、関係会社が事務所を福島第一原発のなるべく近くにつくる計画もある。あわせて宿舎もできれば近くにつくりたいという計画もある。今各町の職員や地権者等との交渉が一部あるとも聞いている。いずれにせよ、そのような情報をしっかりと福島復興本社及び廃炉推進カンパニーで把握して、これからは議員指摘のように、なるべく現場近くにそのような施設があるのが望ましいので、努力していきたい。

古市三久議員

次に、K排水路の問題であるが、昨年2月ごろから原子力規制庁でいろいろと議論になっていた。港湾内につけかえる議論も3～4月ごろにしていたと思う。ところが、ことしになるまでわからないで、たまたま明らかになったので東京電力（株）が謝罪したり、情報公開をしたと思う。やはり原子力規制委員会ですべて議論している段階でそのようなことがわかれば、速やかに港湾内に流れるようにつけかえるべきではなかったかと思うが、どうか。

東京電力（株）常務執行役

原子力規制委員会と議論していたときにも、K排水路をきれいにすることを主に議論していた。そのために上流側、K排水路は、福島第一原発の高台から水が落ちてきて、その水がどんどん流れ込むので、そこを舗装したり瓦れきを取り除くことできれいになるであろうことから、そちらの作業を優先した。確かに案としては排水路をつけかえる案はあったが、その当時は掃除をしてきれいにすることを優先して考えていたのが正直なところである。

今回、このような形で外に出て皆に心配をかけたことから反省し、大至急やろうと考えて、それでも1年かかるが、来年3月までにしっかりと直したいので、理解願う。

古市三久議員

それは、先ほど述べたように東京電力（株）の都合だと思う。本当に県民の安全・安心を考えるのであれば速やかにそのような議論があったときにすべきであったと思う。

次の質問をする。1～3号機の燃料デブリはどの位置にあるか、推定になるかもしれないが尋ねる。

東京電力（株）常務執行役

まだ解析上の数字がほとんどである。解析からすれば1号機は、压力容器の中にはなく、ほとんど下に落ちていると思っている。2、3号機は五分五分という人もいるし、我々では4対6くらいで下に落ちているものと压力容器の中に残っているものと解析が出てきているものもある。これが正しいかどうかこれから調べる必要がある。そのためにミュオン（宇宙線ミュオン粒子）というレントゲン写真のようなもので1号機は調べたが、1号機は压力容器の中になさそうということで、ほぼ解析と合っていると思っている。このあとロボットを入れてしっかりと確認できればよいが、そのようなやり方で2、3号機もどこにどれくらいあるのかしっかりと見きわめる必要がある。今は正直なところ、解析上の数字しかわかっていない。

古市三久議員

1～3号機は全てメルトスルーしているとの認識でよいか。あるいはメルトダウンとメルトスルーがあるのか。

東京電力（株）常務執行役

メルトダウン、メルトスルーという言葉の定義が難しいが、压力容器から溶け落ちたものはあり、格納容器の一番下にたまっているのは1～3号機ともある。ただし、格納容器の下を突き抜けていることは絶対ないと思っている。压力容器の中にどれくらい残っているかについては各機により少し違うことと、解析上の数字がまだ正確ではないことから、解析する人により違う数字が報告されていると理解願う。

古市三久議員

2号機のデブリは、地下水脈と接触しているという指摘もあるが、東京電力（株）としては、1～3号機の燃料デブリが地下水脈と接触している認識はあるか。

東京電力（株）常務執行役

地下水脈と触れるためには、格納容器から下に抜け落ちている必要がある。

先ほど述べたように、格納容器の中に確実にとどまっているものと思っている。格納容器の下のコンクリートの中に少し入っているかもしれないが、地下水脈に触れていることは一切ない。それは今までのサンプリングデータからもしっかりとと言える。

古市三久議員

今ほどサンプリングとの説明があったが、その根拠はどのようなものか。

東京電力（株）常務執行役

根拠というのは難しい言葉であるが、解析で実際に格納容器の中にどれくらい、どのように溶け落ちているか、もし格納容器の下を抜けたらどのような事象が発生しているかなどを考えると、そのようなことはなさそうであることと、地下水脈に触れていれば、もっと高線量のものが海側、地下水脈の流れに沿ったところに見つかると思う。今海側で見つかるサンプリングデータでは、トリチウムやセシウムの値が高いとか、たまにストロンチウムの値が高いことはあるが、事故後の放射性物質の放出にふさわしいデータがとれているので、そのようなことはないと思う。

古市三久議員

ロボットによる調査が延期された。ロボットは放射能に弱いとも言われている。これから研究しながら進めると思うが、技術的に放射能に強いロボットを開発できる可能性はあるのか。

東京電力（株）常務執行役

放射能でやられる部分としてはカメラのレンズの後ろについている乾板の部分で、放射線が当たると傷んでどんどん解像度が劣化する。それからICなどの制御装置は放射線が当たると中の数字が化けて変わってしまうのでうまく動かなくなる。それらを絶対耐えられるようにするのは難しいと思う。それらを放射線の少しでも弱い場所に置くようにする、あるいは頻繁に交換しながら運転するといった工夫だと思う。徹底的に放射線に耐えるものをつくるよりは、そのようにかえることも考えながら今やっている。放射線に耐えられるものと余りのめり込んでいってしまうと、よい技術が使えなくなったり、費用ばかり高くなって時間を浪費することもあり得るので、幅広く原子力以外の人の知恵もかりながらやっている。ただし、放射線に弱いところがあるので、それを頭に入れた上で仕事を続けることが大事である。

古市三久議員

ロボットを投入するところの金属が撤去できないことから今回延期になったと思うが、投入口から中性子が出てくる危険性はないか。

東京電力（株）常務執行役

運転中のプラントの場合は、それを考えてつくった遮蔽ブロックである。今は運転しているプラントではないので、その遮蔽ブロックによって放射線の線量を下げたためには使っていたが、中性子が飛ぶことはない。今作業がうまくできていないのは、そばにいと非常に大きな被曝をしてしまうので、人間が入って取り除けないためである。遮蔽ブロックはこれから機械で取り除くこととなるが、中性子は余り関係ない。

古市三久議員

現在大気中に2万4,000Bq/lの放射能が放出されていると言われていたが、これを減らす手だてではないのか。

東京電力（株）常務執行役

震災後から見ると、数値はとて小さくなっている。これからもっと小さくするためには、まずは測定の精度を上げる必要がある。今はどちらかと言えば、かなり保守的に考えた数字を示しているのだから、皆がびっくりするような値になることもあるが、監視側でももっときめ細やかに管理し、瓦れきをどかし、格納容器の中のガスの処理がさらにきちんと進められる設備をつけるといったことにより、外に対して与える影響を小さくしていく。

古市三久議員

ぜひ大気中への放出を少なくしてもらいたい。

以上で質問を終わる。